

---

## 第5章 リーディングプロジェクト

---

- 1 「霞ヶ浦・園部川・巴川“水辺保全活用”」プロジェクト
- 2 「水・土・空のきれいなまち」プロジェクト
- 3 「ごみの不法投棄やポイ捨て防止！」プロジェクト
- 4 「毎日の暮らしから CO<sub>2</sub> を減らそう」プロジェクト

この章では、本計画を推進していく中で、全体を先導していく施策を示しました。すなわち、最も優先的に行うことで全体の取り組みを促進する施策として位置づけ推進していく施策です。

プロジェクトの設定は、市民の声（環境意識調査結果）を重視し、取り組みやすい内容を組み込みました。

また、取り組みの実効性を高め、その効果を数値で確認・評価するために、環境指標と目標値を設定しました。

## 1 「霞ヶ浦・園部川・巴川“水辺保全活用”」プロジェクト

本市は、豊かな自然環境を有しており、広大な霞ヶ浦、そこにそそぐ園部川、梶無川、鎌田川、北浦にそそぐ巴川など多様な水環境に恵まれています。

市の環境で市民が最もすばらしい、これは守っていききたいと思っている自然環境・風景及び霞ヶ浦などの水辺が抱える課題解決に協働で取り組み、生き生きとした水辺環境の保全活用を目指します。



### 市民の声 ～環境意識調査結果より～

問い：小美玉市の環境について、ここがすばらしいと思うところは？  
また、これは守っていききたいと思うところは？

#### 第1位 自然・風景

私たちができること

- ・自然のままの状態を維持できよう環境を守って行くこと
- ・緑化活動、植林活動や里山保全、ごみ拾い等を行う
- ・市民の広場を市民で作っていく

#### 第2位 霞ヶ浦

私たちができること

- ・水質を良くする、悪臭などをなくす
- ・クリーン作戦に参加して積極的に取り組む
- ・特定外来種の駆除

#### 第3位 森林

私たちができること

- ・現在の森林(面積)を守りたい
- ・美化活動を行う
- ・むやみに伐採しない、新しい木を育てる

### 1-1 現状と課題

- ・霞ヶ浦やそこにそそぐ園部川、梶無川、鎌田川、北浦にそそぐ巴川などすばらしい水環境があるが、ごみの不法投棄などにより汚され、水源としての森林も放置された状態となってきました。
- ・園部川、巴川水系などは生物の生息地など多様な機能を保持しており、豊かな水辺の形成に大変重要ですが、特に巴川水系の<sup>まつのち</sup>先後公園に隣接する<sup>はちまん</sup>八幡池はかつて良好な湿地であったが近年枯渇化が進み、貴重な湿生生物、植物が消滅の危機に瀕しています。
- ・霞ヶ浦湖岸にはヨシ原など沿岸湿地が少なく、多様な生物の生息域が少なくなっています。
- ・安全に遊ぶなど環境学習ができる水辺環境がほとんどありません。

### 1-2 プロジェクトの概要

- 生物多様性地域戦略を策定します。
- 霞ヶ浦やそこにそそぐ園部川、梶無川、鎌田川、北浦にそそぐ巴川の美化に努めるためクリーンアップ行事などを開催し、水域周辺のごみ拾いなど環境美化の機運を高めます。
- 巴川水系の<sup>まつのち</sup>先後公園に隣接する<sup>はちまん</sup>八幡池の生物多様性を維持するため湿性環境を復元し、周辺の林を整備して環境教育の場として活用します。
- 園部川水域に親水公園として環境体験ができる市民ビオトープを創設します。
- 霞ヶ浦湖岸にヨシ原を復元し親水公園を作ります。

### 1-3 環境指標と数値目標

環境指標	現状 (R2年度)	中間目標 (R7年度)	計画目標 (R12年度)
生物多様性地域戦略の策定	0件	1件	見直し
目標：ゼロカーボンシティ構築の一環として生物多様性地域戦略を策定します。			
水辺周辺のクリーンアップ行事 などを開催	1件	2件 (1件/6か月)	4件 (1件/春夏秋冬)
目標：定期的にクリーンアップ行事を開催し、環境美化の機運を高めていきます。			
八幡池復元プロジェクト	計画策定	保全事業の 開始 (R3~R7)	維持管理事業 の実施 (R7~R12)
目標：湿地の復元及び周辺林を整備し、環境教育の場として活用します。			
市民ビオトープ	計画策定開始	市民が植物 などを移植 (R3~R7)	維持作業を 市民参加型で 実施 (R8~R12)
目標：園部川水域に市民参加型のビオトープを作ります。			
霞ヶ浦に親水公園を作る	計画策定開始	関係各所との 調整完了	ヨシ原復元 事業実施
現状：霞ヶ浦湖岸にはヨシ原など沿岸湿地が少ないです。 目標：霞ヶ浦湖岸にはヨシ原などを復元し親水公園を作ります。			

## 2 「水・土・空のきれいなまち」プロジェクト

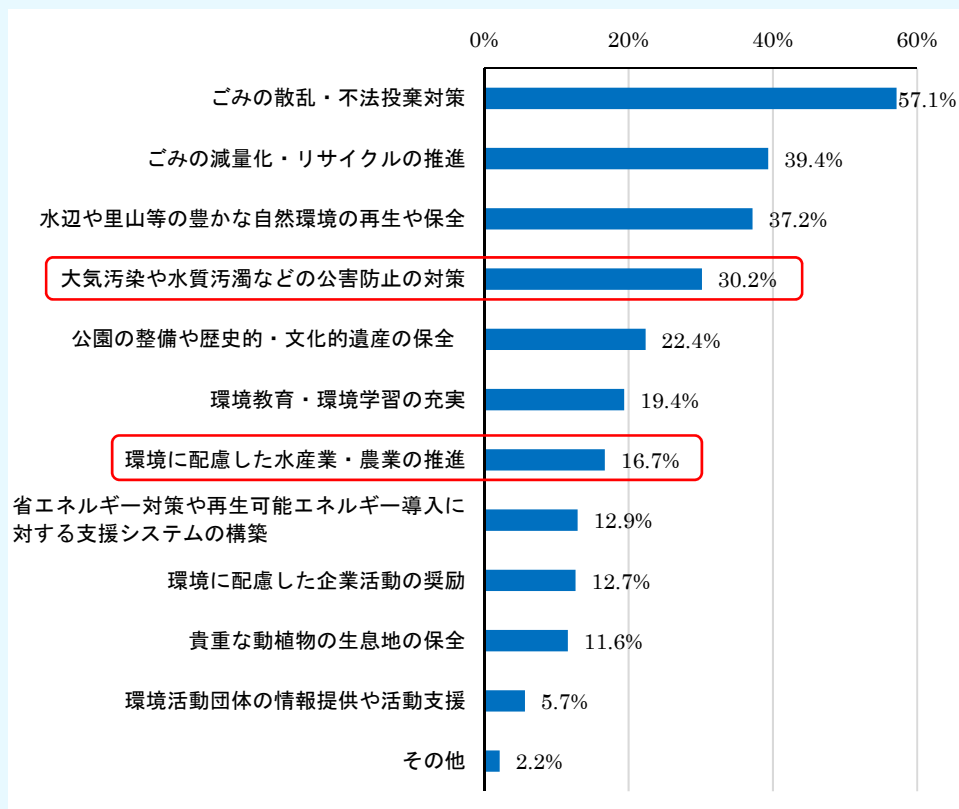
本市は、霞ヶ浦やそこにそそぐ河川などの水環境に恵まれており、平坦な地形が特徴であることから、農業や畜産業などが盛んに行われています。

市の環境を良くしていくためには、地域循環共生圏へ登録し、大気汚染・悪臭や水質汚濁など、公害防止対策や環境に配慮し、抱える課題解決に協働で取り組み水・土・空のきれいなまちづくりを目指します。



### 市民の声 ～環境意識調査結果より～

問い：小美玉市の環境を良くしていくために、今後どのような施策や取り組みを進めていくべきか？（3つまで回答）



### 2-1 現状と課題

- 水質汚濁防止対策として市内の事業所と公害防止協定の締結を進めています。
- 環境保全の充実を図り、市民が住みやすい地域環境を守っていくことが必要です。
- 国道6号、空港アクセス道路の拡充が進んでいるため、排出ガスや騒音の影響測定を継続することが大切です。
- 大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・振動・悪臭・地盤沈下などの公害防止に努めていくことが必要です。
- 環境に配慮した農業に取り組む必要があります。

### 2-2 プロジェクトの概要

- 霞ヶ浦流域市町村との連携を図り、広域的な水質浄化の取り組みを推進します。
- 大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・振動・悪臭・地盤沈下など、公害防止の苦情受理件数の減少に努めます。
- 環境にやさしい農業に取り組むため、環境保全型農業及びエコファーマー認証登録を推進します。

### 2-3 環境指標と数値目標

環境指標	現状 (R2年度)	中間目標 (R7年度)	計画目標 (R12年度)
園部川、巴川のBOD値	2.2 mg/L (H28年度)	1.8 mg/L	1.8 mg/L
目標：水質浄化の取り組みを推進し、水質指標の一つであるBODの低減を目指します。			
エコファーマー認定者数	270人 (H28年度)	280人	290人
目標：認定農業者に占めるエコファーマー認定農業者の割合が、毎年増加することを目指します。			

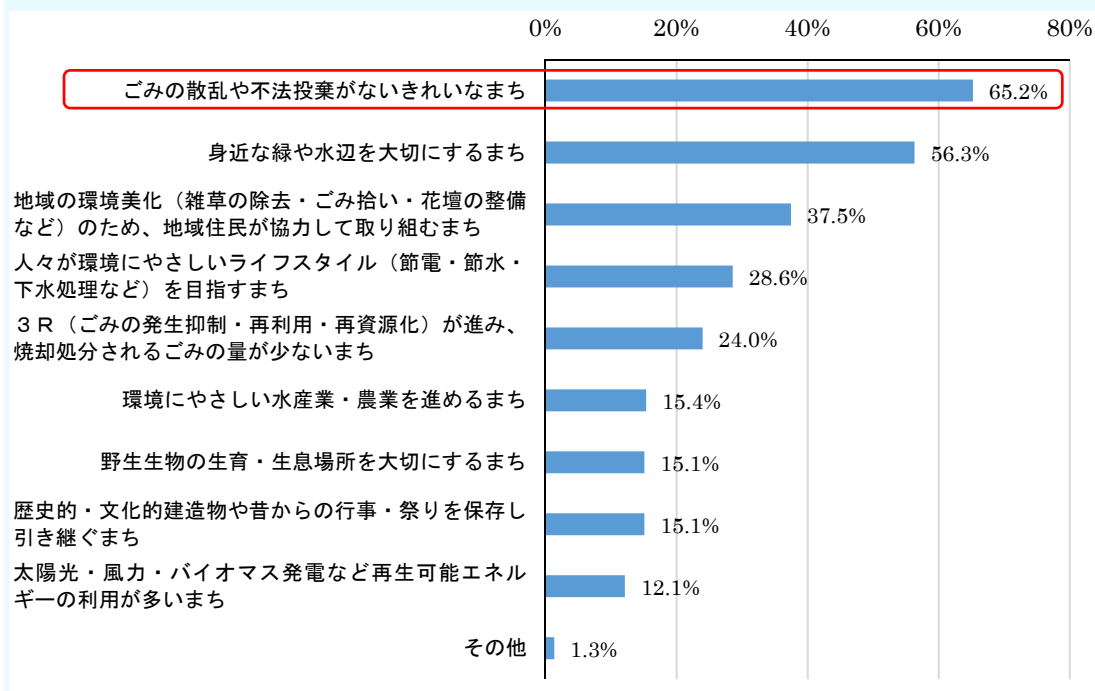
### 3 「ごみの不法投棄やポイ捨て防止！」プロジェクト

本市では、不法投棄のほか、ポイ捨てなど、モラルのない行動によるごみの散乱が発生しています。小美玉市の環境の将来像として、多くの市民が望んでいる「ごみの散乱や不法投棄がないきれいなまち」を目指していきます。



#### 市民の声 ～環境意識調査結果より～

問い：小美玉市の環境の将来像は？（3つまで回答）



#### 3-1 現状と課題

- ・ごみの減量化を図るために、ごみの分別収集の徹底を図ることで資源化量を増やし生ごみの減量化を図っていくことが必要です。
- ・3R運動の推進など市民のリサイクル運動を支援していくことが必要です。
- ・ごみのポイ捨てが後を絶たず、社会問題になっています。不法投棄対策は早期発見・早期対応が最も重要であることから、常に不法投棄の監視巡回・指導体制の強化、不法投棄防止についての啓発活動が必要です。

### 3-2 プロジェクトの概要

- ポイ捨て、不法投棄防止に関する啓発の強化をします。
- 不法投棄防止看板の設置及び更新の強化（ポイ捨て防止も含む）を行います。
- 小美玉市不法投棄監視サポーターをはじめ、市民への情報提供及び意識啓発を行います。
- ごみ集積所の管理の強化（集積所周辺の清掃、コンテナの整理整頓）を行います。
- 道路沿いの除草の強化を行います。
- 花壇の整備など環境美化活動の推進を行います。
- 地域循環共生圏へ登録し、地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域資源を保管し地域の活力を最大限に発揮することを目指します。

### 3-3 環境指標と数値目標

環境指標	現状 (R2年度)	中間目標 (R7年度)	計画目標 (R12年度)
1人1日あたりのごみ排出量 (資源ごみを除く)	835g/日・人 (H29年度)	767g/日・人	719g/日・人
目標：ごみの分別収集やリサイクル活動の推進により、ごみ排出量の削減を目指します。			
ごみの資源化率	22.0%	24.1%	25.5%
目標：ごみの排出量に対するリサイクルの割合を増やすことで天然資源の消費を抑制し、環境への負荷低減を目指します。			
不法投棄されたごみ収集量	8,000kg (H29年度)	6,353kg	5,176kg
目標：不法投棄の監視・指導体制の確立により、不法投棄の減少を目指します。			
地域循環共生圏への登録	0件	1件	2件
目標：ゼロカーボンシティ構築の一環として地域循環共生圏の登録を目指します。			

## 4 「毎日の暮らしからCO<sub>2</sub>を減らそう」プロジェクト

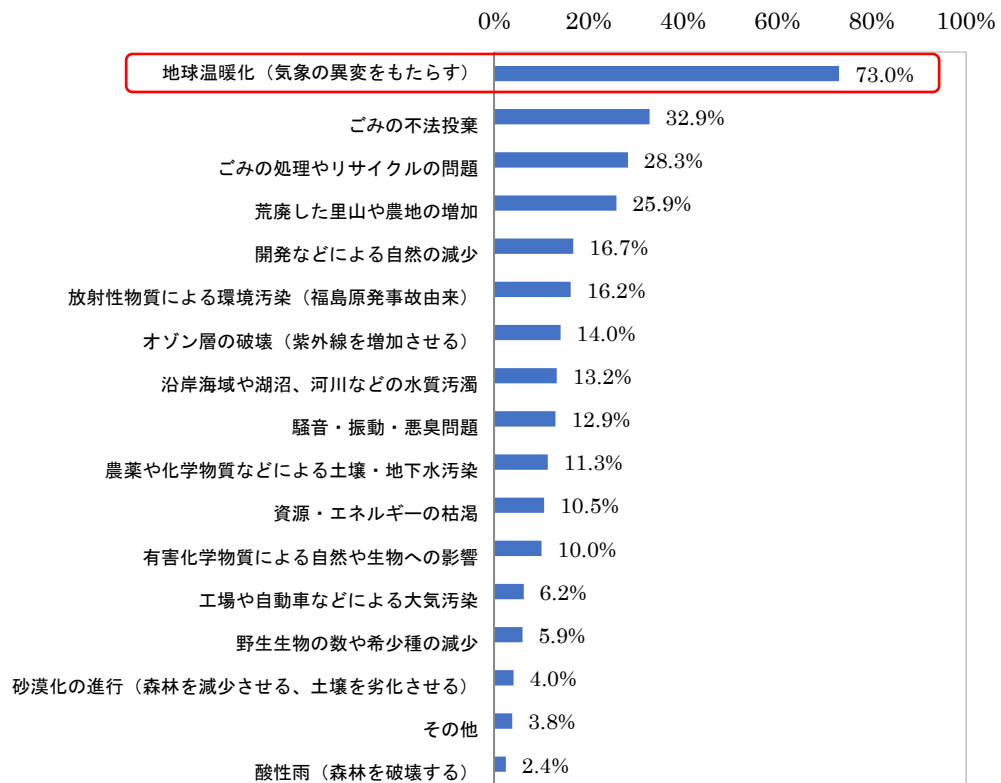
地球温暖化が原因とされる異常気象などの対策として、温室効果ガス排出量の削減のための「緩和策」と気候変動による影響に備えた「適応策」の両面から取り組む必要があります。

本市では、これらについて、今後、国や県の動向を見ながら取り組みを進めていきます。



### 市民の声 ～環境意識調査結果より～

問い：特に対策の強化が必要な環境問題は？（3つまで回答）





#### 4-1 現状と課題

- ゼロカーボンシティの推進について、今後二酸化炭素排出実質ゼロの実現に向けて、関係機関の協力を得ながら環境保全への積極的な取り組みを推進していきます。
- 県央地域定住自立圏構成市町村との連携を図るとともに、エコオフィス、エコドライブなど市民のエコライフを支援する取り組みを進めるための強化が必要です。

#### 4-2 プロジェクトの概要

- ゼロカーボンシティを推進するために、地球温暖化防止実行計画（区域施策編）及び気候変動適応計画の策定を目指します。
- CO<sub>2</sub> 排出量を抑制する効果の高い、電気自動車の普及を促進します。

#### 4-3 環境指標と数値目標

環境指標	現状 (R2 年度)	中間目標 (R7 年度)	計画目標 (R12 年度)
地球温暖化防止実行計画 (区域施策編)	0 件	1 件	1 件
目標：ゼロカーボンシティ構築の一環として地球温暖化防止実行計画（区域施策編）の策定を目指します。			
気候変動適応計画	0 件	1 件	1 件
目標：ゼロカーボンシティ構築の一環として気候変動適応計画の策定を目指します。			
電気自動車充電スタンド設置数	9 か所	15 か所	20 か所
目標：CO <sub>2</sub> 排出量を抑制する効果の高い、電気自動車の普及を促進するため、電気充電スタンドの設置数の増加を目指します。			

